

行政視察等報告書（個人用）

平成 30 年 8 月 20 日

知立市議会議長 様

報 告 者	杉山 千春
日 時	平成 30 年 8 月 9 日（木）
視察（研修）場所	静岡県浜松市南区鶴見町 京丸園（株）
目 的	浜松市におけるユニバーサル農業の取組について
	農業と福祉の連携による強い農業

浜松市の農業政策とユニバーサル農業

★ 浜松市の農業政策

「人」担い手の育成・確保

- 1、 たくましい担い手の育成
 - ・ 担い手や経営体の育成
 - ・ 新規就農者の育成
 - ・ 企業の農業参入推進

- 多様な担い手の育成
- ・ 女性や高齢者の参画の推進
 - ・ ユニバーサル農業の推進
 - ・ 営農支援体制の整備

★ユニバーサル農業とは？

「農業や園芸作業を行うことによる生きがいづくりや、高齢者・障がい者の社会参画などの効用を、農業経営の改善や多様な担い手の育成などにいかしていこうという取組」

◎浜松市の取り組み

農業者、福祉関係者、企業関係者、学識経験者、県及び市の各関係機関で構成する「浜松市ユニバーサル農業研究会」において、定例会や視察調査、イベントへの出展等を通じ、情報の共有化や連携の促進を図りながらユニバーサル農業を推進

現在の取り組み

- 行政機関⇒中間支援
- ・ 農・福・企業のマッチング
 - ・ 農家に対するユニバーサル農業スタートアップ支援
 - ・ 企業（特例子会社）の誘致、教育、研修、宣伝活動

- ◆福祉施設とのマッチングや農業者の環境整備のための研究調査
企業（特例子会社）や農業者による障がい者雇用の推進

今回農業者から 2004 年に法人化し、ユニバーサル農業を着実に企業運営に結びつけ事業拡大している「京丸園株式会社」の“農業×福祉”の実態を視察させて頂いた。

★水耕栽培で芽ねぎや三つ葉、ミニ青梗菜などを生産している。現在従業員 89 名のうち 24 名が障がい者スタッフとして働かれ、“人が仕事に合わせるのではなく、人に合わせて仕事を創り出す”という発想のもと分業制や機械化を取り入れて、農業の仕組みを改革。組織力の強化や生産性の向上をはかり、事業を拡大している。

「ボランティアからビジネスパートナーへ」京丸園さんは、代々、水田農業などを営む農家で社長は 13 代目

紆余曲折ではあるが、今回視察させてもらい一番に感じたは、働いている人たちの明るさだった。誰もが働ける環境整備に資産を投じて、最終的に障がい者チームだけでの生産は黒字化しているとのこと。

あの明るさは仕事への自信と誇りなのかもしれない。当日は市の農業水産課の職員の方も同行してもらった。市では、補助金などの支援なしとのこと。

【 知立市政への反映に向けた課題 】

学ぶべき点は多くあった

知立市も「かきつ畑プロジェクト」事業を立ち上げ都市化農業に向き合いはじめているが、福祉との掛け算に農業を持ってきている浜松市の取組企業の立場からの見方。大きく農業と福祉を変える視点がこのユニバーサル農業にあると感じた。後継者問題や農地面積など課題も多いが、これからの福祉、就労の在り方に視点をかえむきあっていきたい。